

高校の選び方

清らかな青空が胸にまでしみわたるこの頃、勉強に運動に最適な季節となりましたね。

さて、当塾のホームページをご覧いただいている方はすでにご存じだと思いますが、先月の末に一人の卒塾生が後輩塾生にメッセージを送ってくださいました。彼の経歴、メッセージ内容につきましては、是非ホームページにてご確認ください。彼の言わんとすることについて、ここでは私の意見を交え少し補足したいと思います。

彼が最も後輩に訴えたかったこと、それは、“高校はどんな考え方の友人とともに学べるか、も重視して選んでほしい一旭丘を強く推薦”ということと、“自分で自分の枠（限界）を決めるな”の2点だったと思います。

まず1点目について。当塾はむやみに上位校の受験を煽ることはしないというのが開塾以来のスタイルですので、旭丘を推薦ということはおいておくとしても、高校選びにおいて、その高校の環境（友人の考え方を含む）を重視するというのは非常に大切なことだと思います。どういう大学を目指している生徒が多いのか、どういう受験指導をしてもらえるのか、通学にどれほどの労力を要するのか、等。受験指導に関して言いますと、自分は強制されないとやらないから強制してばんばん引っ張って行ってほしい、と考える人もいれば、強制されるのはきらいなので自分で自由に進めていけるよう管理はゆるい方がいい、と考える人もいるでしょう。学校全体の雰囲気とともにさまざまな角度から環境を考えて、自分の目的に合った高校を選んでほしいと思います。

さて、2点目について。これは昨今、私自身も大変気になっていたことの一つです。今のこの時期、中3ならば目標高を決めて一心不乱に努力している姿を大人の方は想像されているのではないのでしょうか。ところが、ここ数年、そんな子ども達の姿はなかなか見られません。今のこの時期になっても志望校が定まらず、面談で話しても「行けるならばここに行きたいけれど、無理ならいいです。」といった話をする塾生も少なくありません。確固とした目標がない。こだわりもない。無理な努力はしたくない。そんな中学生が多いのが現実です。

無理矢理高い目標を持てとは言いません。しかし、高校の名前はさておき、自分の能力に自分自身がこだわらなくてどうするのでしょうか。努力をして力を伸ばすのは、親のためでも、学校や塾の先生のためでもありません。自分自身の可能性にこだわっている自分を好きになり、現況を見つめながら自分に厳しく努力を続けたい限り、うまくいくものもうまくいきません。これは、今後の生き方にもつながってくることだと思います。